



## AI活用の最前線： 今すぐチェックすべき 10の最新イノベーション

これらの実際の（多くはマルチモーダルな）ユースケースと  
貴社のデータを組み合わせることで、競争優位性を生み出すことができます



# 目次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| AI活用の最前線                | 3  |
| 画像解析で視野を拡張              | 4  |
| 高度なAIエージェントが業務を代行       | 5  |
| 加速する業務の自動化              | 7  |
| 感情分析AIで顧客対応が進化          | 8  |
| 開発者へのAI支援               | 10 |
| AIがアップセル提案を強化           | 11 |
| 人事の頼れるAIアシスタント          | 12 |
| サイバーセキュリティを守るAI         | 14 |
| 壊れる前に対応する予知保全           | 15 |
| アンビエントAIが周囲の環境や状況を見守る世界 | 16 |
| オラクルの取り組み               | 17 |

# AI活用の最前線

Joseph Tsidulko著

シニアライター

生成AIの急速な進化と、オブジェクト検出やトレンド予測といった機械学習を活用した補完的なテクノロジーの発展により、これまで理想にすぎなかったユースケースの数々が、「実現できれば素晴らしい」という段階から「実際に試してみよう」という段階へと移行しました。結局のところ、インテリジェントなアルゴリズムのトレーニングに時間と資金を投資する目的は、人々がより効率的に、迅速に、そして安全に仕事を進められるよう支援することにあります。

ここで取り上げるのは、コンピュータビジョン、音声認識と音声合成、自然言語処理、予測エンジンなど、AIを活用したツールを取り入れた新たなアプリケーションです。現在の先進的な製品の多くはマルチモーダルAIを採用しており、従来型AIや生成AIのモデルをひも付け、それらに関連するデータを活用して複雑なタスクを実行しています。たとえば自律運転について考えてみてください。乗客がチャットボットに住所を伝えると、ナビゲーションシステムが最適な経路を計算し、リアルタイムの画像分析がカメラやセンサーから送られる映像を解釈し、別のAIがアクセルを踏んでハンドルを切ります。

同じ概念は、複雑なビジネスプロセスの自動化にも応用されており、しばしば「AIエージェント」と呼ばれる高度なAIツールが利用されます。デジタルプロセスや物理的なプロセスの自動化において、こうしたAIエージェントがどのように創造的なアプローチを実現しているのかについて多くの事例が紹介されています。

ここでは、想像力を掻き立てる10のユースケースをご紹介します。

インテリジェントなアルゴリズムをトレーニングする目的は、人々がより効率的に、迅速に、そして安全に仕事を進められるよう支援することにあります。



## 画像解析で視野を拡張

人間ならすぐに認識できるような単純な物体でさえ、AIに識別させるのは少し前までは大きな課題でした。2012年、16,000個のプロセッサーを使ったニューラルネットワークがYouTubeの動画に映る猫を見つけることに成功したとき、この成果は大きな節目として称賛されました。それもそのはずで、動画には品種や色、大きさの異なる猫が、さまざまな角度や照明のもとで映っていたのです。これは画期的な出来事でした。しかしその後わずか数年で、コンピュータビジョンと呼ばれるAIの一分野で訓練された画像解析モデルは進化を遂げ、何千種類もの猫の品種や他の動物を瞬時に分類できるようになりました。

GPUを中心とした大規模なプロセッサー群を活用し、より大きく高品質なデータセットで高度なモデルを訓練できるようになったことで、パブリッククラウドは物体認識の急速な進化を支える主要な要因となりました。革新的な企業は今、人間には到底見分けられないような微細で重要な特徴を、より迅速かつ正確に捉えられるツールを開発しています。一部の企業は、放射線科医ががんをより正確に検出できるよう支援するために、X線画像や生検画像を解析するディープ・ニューラル・ネットワークをトレーニングしています。<sup>1</sup>別のシステムでは、何百エーカーにも及ぶ農地を撮影した何千枚ものドローン画像を解析し、収穫に被害を及ぼす前に害虫や病気、作物の欠陥を特定しています。

このように、ほぼすべての業界がこの技術をどのように活用できるかを模索しており、物体検出は個別マーケティング、建設現場の安全管理、異常検知、自動運転車、デジタルメディアの整理など、実に多様なユースケースに応用されています。一例として、米国運輸保安局（TSA）は、手荷物検査のX線画像をAIで解析し、人間の担当者にとって重要でありながら負担の大きい作業の効率化を図る計画を立てています。<sup>2</sup>

画像解析を大規模言語モデル（LLM）と組み合わせることで、製造上の欠陥であれ、がんであれ、異常を検知するだけでなく、その是正措置まで提案できるAIが実現しつつあります。

<sup>1</sup> PMC PubMed Central

<sup>2</sup> Nextgov/FCW

# 高度なAIエージェントが業務を代行

生成AIを活用したチャットボットは、人間と機械の橋渡しをするAIエージェントの代表的な存在であり、主にあらかじめ決められたルールやロジックに基づいて動作していた従来のルールベースの会話型アシスタントから大きく進化した存在です。しかし、そのほかにも数多くのAIエージェントが目立たないところで活動しており、関連するデータソースにクリエイティブを投げたり、生成モデルを活用して複雑な処理を自律的に実行したりしています。まるで、人目につかないオフィスの片隅で、匿名の作業員が報告書をさばき、支払いを処理し、苦情に対応するなど、さまざまな業務を巧みに進めているようなものです。

これらのエージェントが集まり、それぞれの役割を連携させて包括的なワークフローを遂行するのがエージェント型AI（エージェンティックAI）です。そしてこの技術は、企業が顧客と関わる方法、従業員の管理、財務業務の遂行、取引の運営方法を大きく変えようとしています。

新入社員の受け入れは、日常的でありながら手間のかかる業務プロセスの一つです。AIエージェントは、新入社員に関連する通知や資料を送付し、福利厚生について理解を深める手助けをしたり、税務書類などの各種手続きを支援したり、研修の日程を調整したりすることができます。また、ITシステムや職務に必要な施設など、社内リソースへのアクセス権を付与することも可能です。

## マルチモーダル・AIエージェントが本格稼働

マルチモーダルAIとは、テキストだけでなく多様な種類のデータを取り込むことができるモデルを指します。たとえば、画像、音声、動画、センサー、位置情報データなどです。こうした多様な入力を組み合わせて分析することで、マルチモーダル・AIエージェントはより包括的に世界を理解し、活動することができます。

たとえば、テキストだけでなく設計図のような画像も理解しながら製品に関する質問に答えるチャットボットや、顧客の閲覧履歴や購入履歴を分析し、さらに製品画像やレビューを活用して次に購入すべき商品を提案する推薦エンジンなどがあります。この技術は、医療や倉庫管理など、さまざまな分野で幅広く活用されています。

こうした多様な入力を組み合わせて分析することで、マルチモーダル・AIエージェントはより包括的に世界を理解し、活動することができます。

そして、企業にとって大きな障壁だった課題がほぼ解消されたことで、AIエージェントはこれからさらに幅広く導入されようとしています。AIエージェントは、一般的なデータセットで訓練されたモデルを利用しておおり、企業固有の事情を把握しているわけではありません。また、モデルに自社の機密情報を組み込むために、その開発者に重要なデータを渡すことも望ましくないでしょう。検索拡張生成（RAG）は、この問題を解決します。RAGでは、AIエージェントを企業独自の情報にアクセスさせることで、テキストや業務処理などの出力を企業向けに最適化できます。基本的に、RAGは基盤モデルにコンテキストを提供し、企業の制限付きデータベースやアプリケーションの情報を取り込ませることが可能になりますが、その知識 자체をモデルに直接開示することはできません。

RAGによって、AIエージェントは業務に役立つアクションを許可された範囲で実行できるようになります。たとえば、在庫を検索する、見込み顧客にメールを送る、患者の症状を医療記録に入力するなどです。コンテキストを明確に指定することで、RAGは基盤モデルの出力を最新に保ち、さらに生成AIの信頼性を損なう原因となるハリシネーション（誤情報）の発生を減らすことができます。



RAGによって、AIエージェントは業務に役立つアクションを許可された範囲で実行できるようになります。たとえば、在庫を検索する、見込み顧客にメールを送る、患者の症状を医療記録に入力するなどです。

# 加速する業務の自動化

ビジネス・プロセス・オートメーション（BPA）は、人型ロボットが機械を組み立てたり、自動運転車が街中を走ったりするような華やかなAIの活用事例ほど目を引くものではないかもしれません。しかし、そうした目立つユースケースと同様に、BPAも近年大きな進歩を遂げており、ほぼあらゆる業界の企業にこれまで以上の効率性と信頼性をもたらそうとしています。実際、現在のシステムは、人間の承認者を常に関与させながら、完全に自律的に実行することが可能です。これにより、AIへの信頼性が高まります。

多くの企業はすでに、反復的な作業を自動化するためにロボティック・プロセス・オートメーション（RPA）を導入しています。RPAでは、ソフトウェアボットを使ってエンタープライズ・アプリケーションやWebサイトのユーザーインターフェースを操作し、人間が行っていた単調な作業を模倣させます。この手法はシンプルなルールに基づいており、標準的なフォームに構造化データを入力したり、そこからデータを抽出したり、あらかじめ決められたワークフローに沿ってファイルを処理したりするのに効果を発揮します。ただし、次に何をすべきかが明確でない場合には、こうしたボットは支援を必要とします。

こうした支援は、もはや人間だけが行う必要はありません。機械学習で訓練されたRPAボットは、あらかじめ決められたルールだけに従うものよりも高度なワークフローを処理でき、時間とともにパフォーマンスを向上させることができます。コンピュータビジョンや自然言語処理といったAI技術を組み合わせることで、RPAはビジネスプロセスで使われる多様な画像や文書をより深く理解し、自律的に作業を行うことが可能になります。

インテリジェントなエージェントは、RPAの認識能力や意思決定能力にさらに高度な機能を加えることができます。大規模言語モデル（LLM）を活用してユーザーからの指示やテキストの文脈を理解し、ガイドや承認が必要な場面で人間を的確にワークフローに関与させることで、生成AIはRPAが変化する要素や状況に応じてワークフローを柔軟に管理できるようにします。これにより、さらに多くのビジネスプロセスを自動化できるようになります。

マルチモーダルAIに支えられたBPAシステムは、今後ますます非構造化データを取り込み、人の手を介さずにワークフローを最適化し、必要な場面では人間と柔軟にやり取りを行い、結果を予測と比較し、多様なITシステム間でシームレスに稼働するようになっていきます。



## 感情分析AIで顧客対応が進化

すべての企業は、自社の製品やサービスについて顧客がどのように感じているのかを知りたいと考えています。そして今、その答えを知るために機械を活用する企業が増えています。

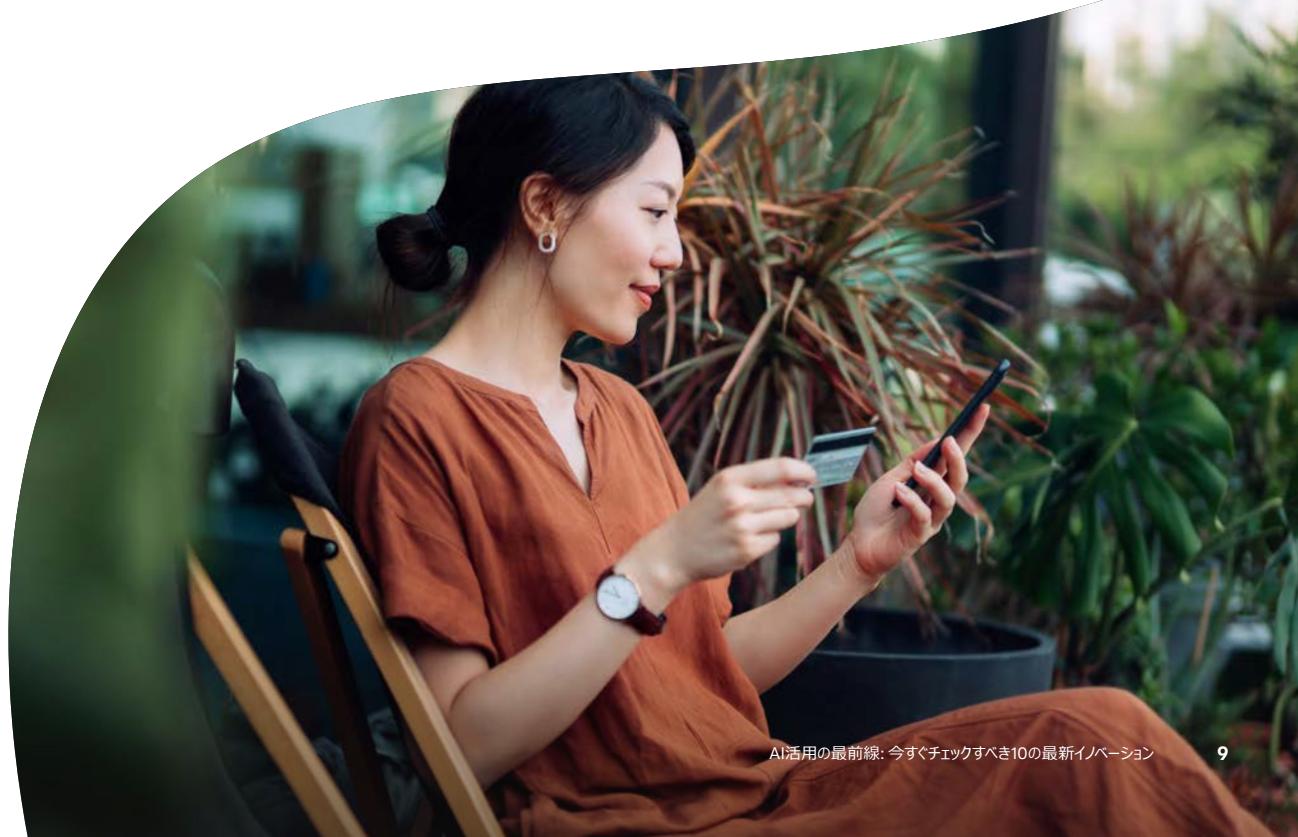
AIは人間の感情を読み取る能力をますます高めています。このような分析は「感情認識AI」と呼ばれることもあり、カスタマーサービス、営業、マーケティング、製品開発など、あらゆる分野のビジネスに役立つ可能性があります。

現在すでに、AIはメールやソーシャルメディアの投稿、チャットボットでの対話、アンケートなどのテキストデータを分析し、顧客の感情を理解するために使用されています。分析結果に基づき、顧客が怒っているのか満足しているのか、サービスチケットの優先度を上げる必要があるのか、ソーシャルメディアでの問題の兆候に対処すべきか、といった判断を的確に行うことができます。

音声認識エンジンの登場により、このユースケースはさらに広がりました。話し言葉をテキストに変換することで、電話やその他の音声でのやり取りに感情分析を適用できるようになり、多くの場合リアルタイムで分析が可能です。音声認識とAIによる感情分析を組み合わせることで、カスタマーサービスの通話内容を分析し、顧客との効果的な関わり方について適切なタイミングで提案を行い、問題の解決を支援したり、顧客に役立つ解決策を提示したりすることができます。この技術は、録音された営業電話を分析し、担当者が今後の顧客対応をより良くするためのヒントを得る目的でも活用されています。

AIが、相手が怒っているのか、苛立っているのか、ただ疲れているだけなのかをかなり正確に推測できるようになってきているとはいえ、感情を読み取るのは非常に難題であることを忘れてはいけません。それは機械にとってだけでなく、人間にとっても同じです。私たちは話し方のパターンや表情、声の抑揚などから感情を感じ取る鋭い直感を持っていますが、それでも研究によると、人間同士でも感情の解釈が一致するのは約80%にとどまるといわれています。たとえば、テキストメッセージを深読みしすぎて失敗した経験は誰しもあるでしょう。しかし、AIはこの主観的な作業をより巧みにこなせるようになります。感情エンジンがマルチモーダルの音声や映像の手がかり、たとえば声の抑揚や表情といった、言葉だけでは伝わらない感情の要素を取り込めるようになれば、飛躍的な進化が訪れるでしょう。これにより、AIは人間が相手の気持ちを読み取るときに頼りにしている微妙な要素を判断できるようになります。たとえば、無意識に声のトーンが下がる変化や、ストレスや怒りに関連する声の高さや抑揚の変化、または失望や苛立ち、喜びを表す微表情やしぐさなどです。

AIは人間の感情を読み取る能力をますます高めています。このような分析は「感情認識AI」と呼ばれることもあり、カスタマーサービス、営業、マーケティング、製品開発など、あらゆる分野のビジネスに役立つ可能性があります。





## 開発者へのAI支援

開発者は、短い納期の中でパフォーマンスが高く、安全性とスケーラビリティを備えたアプリケーションを提供することに苦労することがあります。また、彼らは最新のテクノロジーを活用することにも熱心です。これが、ソフトウェア開発チームがAIを強力なアシスタントとして急速に取り入れ、安全で一貫性のあるコードを生成、レビュー、ドキュメント化している理由でもあります。

生成AIを活用したコード開発ツールは、最新の設計原則やセキュリティのベストプラクティスを一貫して適用しながら、豊富な機能を備えたミッションクリティカルなアプリケーションの構築を支援しています。あるアナリストの調査によると、開発者のおよそ半数がこうしたツールをすでに使用している、もしくは今後使用する予定だと答えており、特に若い開発者の間ではその割合がさらに高い可能性があります。

この技術は近年大きな進歩を遂げていますが、少なくとも当面の間、人間が完全に不要になるわけではありません。いずれは、アプリケーションの使用感や機能を自然言語で説明するだけで、AIが複数のプロトタイプを生成し、その中から選べるようになる可能性は高いでしょう。しかし現時点では、たとえコードの記述をAIに任せるとしても、エンタープライズ・アプリケーションの基盤となるロジックを設計するには熟練した開発者が必要です。それでも、生成AIを活用したコード開発やローコード/ノーコードツールの登場により、企業規模を問わず、特定のビジネスニーズに合わせた魅力的なWebサイトやユーザーインターフェースを迅速かつ低コストで構築・展開することが、以前よりずっと容易になっています。

しかし、生成AIによるコーディングの真価は、管理されたデータ環境の中で発揮されます。

生成AIのコード開発機能がエンタープライズ向けのデータ管理システムと統合されると、AIは利用可能なデータを理解し、認証と権限管理の仕組みの中で安全にデータへアクセスできるようになります。その結果、開発者はより多くの時間を新しい可能性を考えることに充てられるようになります。その結果、開発者は創造的な取り組みにもっと時間を割けるようになります。

ソフトウェア開発チームはAIを強力なアシスタントとして急速に取り入れ、安全で一貫性のあるコードを生成、レビュー、ドキュメント化しています。



## AIがアップセル提案を強化

AIは、あなたが思っている以上に顧客のことを理解しているかもしれません。つまり、インテリジェントなエージェントは、双方にメリットのある方法でアップセル戦略を強化することができます。

AIモデルは、アップセルや属性ベースの販売（顧客が特定の機能を選んで商品をカスタマイズする手法）に、すでにかなり前から活用されてきました。ホテルの予約、イベントチケットの購入、ECサイトでの買い物、あるいはお気に入りの動画配信サービスで映画を視聴する際などに、こうした収益を伸ばす仕組みを実際に体験したことがある方も多いでしょう。

これらのアルゴリズムは、購入パターンや過去のやり取り、類似顧客の購買履歴、市場のトレンド、ソーシャルメディアでの発信内容、コールセンターへの問い合わせなど、膨大な関連データを分析し、顧客の関心を予測します。ただし、個人の独自の嗜好や好みを反映した商品を特定する点では、これまで常に限界がありました。

ファッションは、従来、機械が効果的にアップセルを行うのが難しかった商品カテゴリーの代表例です。実際の店舗では、経験豊富な販売スタッフがその人の好みを察して、気に入りそうな洋服やアイテムを提案してくれます。AIは今、このような主観的な嗜好を把握する分野でも進展を遂げています。そのため、最新のAIを活用したアップセル・プラットフォームは、これまでの技術では難しかった方法で高付加価値の商品を販売できるようになり、不要な提案を大量に送りつけて顧客をうんざりさせることなく、売上の拡大を実現しつつあります。

# 人事の頼れるAIアシスタント

人事担当者の管理のもと、AIは組織がより高いスキルを持ち、やりがいを感じられる人材を採用・育成する手助けをしています。

その第一歩が、ターゲットを絞った採用活動です。生成AIは、あらゆるデバイスで閲覧できるカスタマイズされたキャリアサイトを作成したり、魅力的な求人情報を作成したり、候補者にパーソナライズされたメッセージで返信することもできます。さらにAIツールは、企業が求める経験やスキルを持った応募者層の目にとまりやすい場所に求人情報を掲載するためにも活用されています。

たとえば、新卒のマリアが大手企業に応募しようとしているとします。AIエージェントは、応募を完了するための手順を段階ごとに説明し、必要な書類や期限について案内することができます。また、面接の日程調整やマインダーの送信、定期的な応募状況の更新も行い、マリアが進捗を把握できるようにします。さらに、このエージェントは候補者からの質問に回答したり、日程調整を支援したりすることで、採用担当者の業務時間も節約できます。

しかし採用は、確実な人材確保のための第一歩に過ぎません。人材管理ソフトウェアに組み込まれたAIエージェントは、新入社員のオンボーディングを支援することもできます。たとえば、必要な税務書類の提出をサポートしたり、福利厚生プランの内容を理解して加入を手助けしたり、社内リソースやサポートへのアクセスを案内することができます。また、この技術はシフトのスケジューリングなど、日常的な人材管理業務を最適化するためにも活用されています。



生成AIは、あらゆるデバイスで閲覧できるカスタマイズされたキャリアサイトを作成したり、魅力的な求人情報を作成したり、候補者にパーソナライズされたメッセージで返信することもできます。

従業員は、継続的な学習、スキル向上、効果的な人脈作りなどの機会につながるキャリア開発リソースにAIを活用し始めています。これにより、従業員はキャリアアップを実現でき、離職率の低下や従業員満足度の向上、将来のマネジメント職を担う人材の育成にもつながります。

多くの組織、特に業務の進め方や規制、ポリシーの変化に対応するために学習カリキュラムが義務付けられている業界の企業は、従業員教育にAIを積極的に活用しています。大規模言語モデル（LLM）を使って、特定の対象者向けのマイクロコンテンツコースの原稿を作成し、さらに音声変換エンジンでその原稿をオンボーディングや研修用動画のナレーションに変換しています。生成AIは、教材に合わせた関連画像を取得・作成したり、知識を確認するためのテストを作成したり、修了認定を行ったりすることもできます。

人事担当者の管理のもと、AIは組織がより高いスキルを持ち、やりがいを感じられる人材を採用・育成する手助けをしています。



# サイバーセキュリティを守るAI

AIは昼夜を問わず、休日や週末も企業のネットワークを監視しています。インテリジェントな自律型エージェントが常にシステムをスキャンし、異常な動作や不審なログイン、データの持ち出しの試み、マルウェア、侵入者の存在を示唆するネットワーク・トラフィックなどを検出しています。残念ながら、サイバーセキュリティの攻防ではAIが双方で利用されており、攻撃者も特定の目的で訓練されたAIを使って脆弱性を探し出したり、悪意あるソフトウェアを拡散したりするケースが増えています。

生成AIが、企業システムの攻撃者と防御者の間で激化する攻防戦において重要な武器となっているのであれば、最新のAI搭載セキュリティツールに注目し、防衛者側に有利な状況を築いていくべきではないでしょうか。

[Zero Trust Packet Routing \(ZPR\)](#) は、AIを活用した革新的なネットワーク保護ソリューションです。ZPRを使えば、セキュリティ管理者は、従業員がアクセスする対象のリソースとデータ・サービスに基づいてネットワーク・トラフィックを制限するポリシーを自然言語で記述できるようになります。ZPRはその後AIを活用して、承認された用途のために承認されたシステム間の通信のみを許可します。

生体認証の活用も、AIが企業のITシステムのセキュリティを強化する方法の一つです。AIを活用した音声、顔、指紋認証により、覚えにくく攻撃を受けやすい17桁の面倒なパスワードを使わずに済むようになります。

AIを活用したインシデント対応ツールもますます高度化しており、多層防御を構築するうえで欠かせない存在になっています。サイバー脅威が検出されたら、わずかな時間も無駄にできません。AIエージェントは、侵害の範囲が広がるのを防ぎ、データ漏洩を最小限に抑え、脅威を排除するための対策を講じ、インシデントを記録して今後の分析に役立てるなど、一連の自動対応を迅速に計画・実行できます。これにより、重要なITシステムへの被害を最小限に抑えることができます。

# 壊れる前に対応する予知保全

予知保全は、あらかじめ決められたスケジュールに従って点検や整備を行う予防保全よりも、以前から優れた方法とされてきました。そして、壊れてから修理する事後保全に比べれば、なおさら望ましいものです。しかし、設備や機器の管理担当者は、ルールベースの評価手法を使って複雑な機械の故障を事前に正確に予測しようとしても、これまで大きな成果を上げることはできませんでした。

今では、AIが機械を監視することで、保全作業を本当の意味で先手を打つ取り組みに変えることができるようになりました。センサーヤスマートデバイスから大量のリアルタイムデータを収集することで、AIはあらかじめ定義されたルールを超える異常な傾向を検出できます。これにより、ビジネスの運営に生産機器、オフィス機器、組立・保管施設、車両などを利用する企業は、コストと時間を節約することができます。

AIを使った予知保全では、機械学習がリアルタイムの監視や過去のデータをもとに、機械が正常に稼働するための理想的な状態を学習し、モデル化します。学習データには、たとえば性能特性や、稼働時の温度や音、赤外線スキャンの結果などが含まれます。AIは、理想的な動作からのわずかな逸脱を監視し、通常は検出されないような異常を特定します。そして、これらの逸脱が及ぼす結果を予測します。

スタッフに保守作業を促すアラートを発することで、突発的な稼働停止を大幅に減らし、高額な修理費用や納期遅延による信用の損失を防ぐことができます。また、機器の寿命と、その機器に依存するオペレーションの信頼性も劇的に向上します。





## アンビエントAIが周囲の環境や状況を見守る世界

AIが常にあなたの周りに存在している世界を想像してみてください。アルゴリズムが絶えず動いている様子は目に見えませんが、実際にはバックグラウンドであなたの移動を追跡し、購買行動を監視し、必要だと判断したときだけ姿を現して支援を提供します。

こう聞くと、まるでディストピアSF映画の世界のように思えるかもしれません。

しかし、環境からの合図を待ってバックグラウンドで静かに稼働し、必要なときに動き出すAIは、今後私たちの個人生活や仕事の中ですますます大きな役割を担っていくでしょう。「アンビエントAI」と呼ばれるこうした技術には、不安を感じさせる側面や、特にプライバシーに関する正当な懸念もありますが、多様なユースケースで活用できる大きなメリットが現実に存在しています。

医療業界は、医師や看護師の負担を軽減しながら重要な医療情報を記録することを目的に、アンビエントAIをいち早く取り入れ始めています。診察の際、アンビエントAIは医師と患者のやり取りを聞き取り、症状の訴え、検査結果、処方、経過観察の指示などを把握します。診察が終わると、AIが重要な内容を抜き出してレポートを作成し、医師に確認用として送付したうえで、患者の電子健康記録に記録します。さらに、診断の候補を医師に提案することもあります。その間、患者は医師が自分の話にしっかり耳を傾けてくれたという安心感を持ち、自分の症状が正確に記録されたことを確信して帰ることができます。

この基本的なユースケースは、さまざまなビジネスに応用できます。アンビエントAIは、常にそばにいるエグゼクティブ・アシスタントのような存在です。たとえば製品デモの場面では、話している内容をリアルタイムで文字に起こし、関連するチャートや資料、画像を画面に表示し、その後、要点や結論をまとめた詳細なレポートを作成して配布することができます。また、カスタマーサービスの電話対応では、アンビエントAIがバックグラウンドで稼働し、担当者がわざわざAIに指示を出さなくても、担当者に有益な情報を提案したり、関連する資料やマニュアルを提示したり、フォローアップの質問を提案したり、対応内容を正式に記録したりすることが可能です。

# 始めるにあたって

オラクルのお客様は、弊社のAI機能の多くを今すぐご利用いただけます。オラクルはAI技術を長年わたり活用し、自社製品に組み込んできた歴史を有しています。また、その開発をリードする存在でもあります。

生成AIは、Oracle Cloud Infrastructure（OCI）のフルマネージド・サービスとして提供されており、チャット、テキスト生成、要約、テキスト埋め込みの作成など、幅広いユースケースに対応する最先端かつカスタマイズ可能なLLMを揃えています。さらに、オラクルのFusion Cloud Applicationsには数多くのAIエージェントが組み込まれており、その数は継続的に増えています。これにより、企業は日常的に使用しているERP、営業、マーケティングなどのアプリケーションを離れることなく、必要な場所で生成AIを活用できます。

OCIは無料でお試しいただけます。あらかじめ学習済みのモデルをすぐに使って試すことも、ご自身のデータをもとに専用のAIクラスタ上でファインチューニングしたカスタムモデルを作成・ホストすることも可能です。

## Oracle Cloud Infrastructure



### AIエージェント

Oracle Cloud Infrastructure（OCI）の生成AIエージェントを活用すれば、対話型インターフェースを使って自然言語で企業のデータストアにクエリを実行できます。これにより、LLMとRAGの強力な機能を自社のデータと組み合わせ、リアルタイムで情報を取得し、その情報に基づいて直接アクションを起こすことが可能になります。

 詳細



### 生成開発

Oracle Database 23aiで導入された、エンタープライズ向けの生成開発は、画期的なAIドリブンのアプリケーション開発環境です。この革新的なAI技術により、開発者はエンタープライズレベルの信頼性、スケーラビリティ、セキュリティを備えた高度なアプリケーションを迅速に構築できます。

 詳細



### OCI Zero Trust Packet Routing

OCI Zero Trust Packet Routingは、ネットワークの基盤となるアーキテクチャとは別にセキュリティポリシーを管理することで、不正なデータアクセスを防ぎます。セキュリティ管理者は、理解しやすい意図ベースのポリシー言語を使用し、データに対して特定のアクセス経路を定義できます。

 詳細

# オラクルの取り組み

大小さまざまな組織が生成AIを活用して大きな成果を上げていますが、この技術はまだ多くの可能性を秘めています。オラクルは、データプラットフォームやクラウドアプリケーションを通じて、幅広いAIサービスと最先端のイノベーションを提供しています。これらはすべて、業界最高水準のAIインフラを基盤としています。生成AI戦略を立てる際には、ぜひオラクルのソリューションをご検討ください。

AIワークショップのガイド

ソリューションの詳細

## オラクルへのお問い合わせ

050-3615-0035にお電話いただくか、[oracle.com/jp](http://oracle.com/jp)にアクセスしてください

国外の地域については、[oracle.com/jp/contact](http://oracle.com/jp/contact)で最寄りのオフィスをお探し下さい

Copyright © 2025 Oracle, Java, MySQLおよびNetSuiteはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。他の名称はそれぞれの所有者の商標である場合があります。このドキュメントは情報提供のみを目的としており、記載内容は予告なしに変更される場合があります。このドキュメントは、誤りがないことを保証するものではなく、口頭または法律で明示されているかどうかにかかわらず、商品性または特定の目的への適合性の默示の保証および条件を含む、他の保証または条件の対象ではありません。オラクルは、このドキュメントに関するいかなる責任も明確に否認します。また、このドキュメントによって直接的、間接的にかかわらず契約上の義務が生じることは一切ありません。このドキュメントは、オラクルによる事前の書面による承諾を得ることなく、目的の如何を問わず、電子的手段または印刷によるものも含めていかなる形式や手段によっても複製または送信することは禁じられています。

